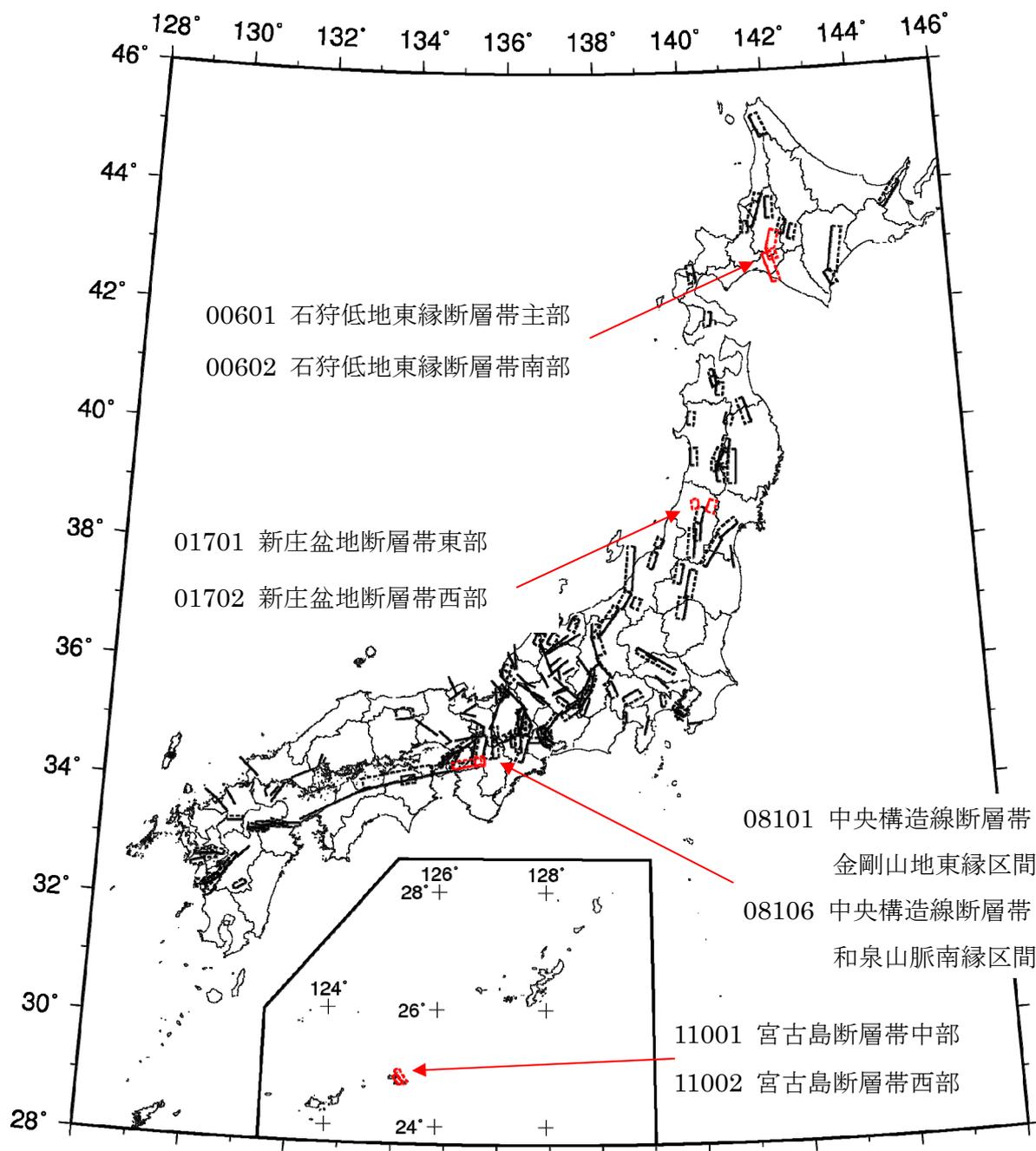


震源断層を特定した地震動予測地図

■ 長期評価の経緯と震源を特定した地震動予測地図の作成条件

これまで、地震調査研究推進本部では、全国の110の主要活断層帯の評価を行ってきた。2009年には、この長期評価の結果をもとに、地震調査研究推進本部でまとめた強震動予測レシピに基づいて、全国の主要活断層帯における震源を特定した地震動予測地図を作成した（「全国地震動予測地図 別冊 2 震源断層を特定した地震動予測地図（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2009.7）」を参照）。さらに、2010年には、庄内平野東縁断層帯北部、庄内平野東縁断層帯南部、神縄・国府津－松田断層帯、琵琶湖西岸断層帯北部、琵琶湖西岸断層帯南部、高田平野西縁断層帯、高田平野東縁断層帯、六日町断層帯北部（モデル A）、六日町断層帯北部（モデル B）、六日町断層帯南部、安芸灘断層群主部、広島湾－岩国沖断層帯における震源断層を特定した地震動予測地図が公表された（「全国地震動予測地図 地図編 2010年版（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2010.5）」を参照）。

今回は、2010年1月～2011年12月に公表された主要活断層帯に関する長期評価のうち、評価の一部改訂により断層の位置・形状に変更があったもの、及び新規に公表された石狩低地東縁断層帯主部、石狩低地東縁断層帯南部、宮古島断層帯中部、宮古島断層帯西部、新庄盆地断層帯東部、新庄盆地断層帯西部、中央構造線断層帯東縁区間、中央構造線断層帯和泉山脈南縁区間における震源を特定した地震動予測地図を公表する。

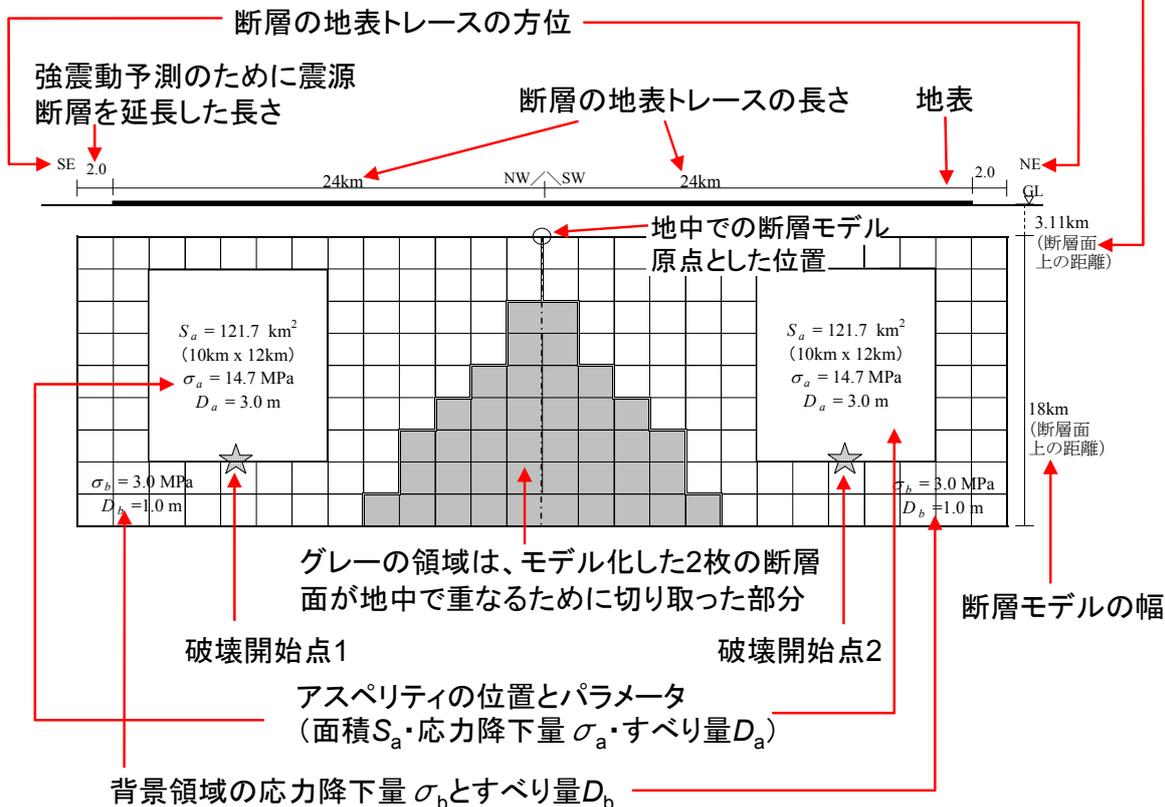


微視的断層モデルとその直交断面の見方の例

微視的断層モデル (地表トレースを方位に合わせて上から見た断層面図)

(断層のメッシュサイズは2km × 2km)

断層面上で傾斜方向に測られた
地表から断層上端までの距離



- ※ ☆が複数ある場合には、破壊開始点が異なる複数ケースを想定して計算している
- ※ アスペリティの枠線が実線の場合は、長期評価による空間的なすべりの大小の情報から位置を推定したもの。点線の場合は情報がなため、レシピに従い配置したもの。

直交断面

